

日本友和会戦争責任告白(2015年)背景資料に関する略年表

年月日	出来事
1896/7/1	和田とみ、富山県高岡市に和田義睦・邦子の長女として生まれる。(出典:E、p228)
1923	和田とみ、米国留学から帰国。九州大学医学部精神科室研究員となる。(出典:E、p231)
1926	日本友和会結成、理事長・小崎道雄、書記長・竹中勝男(出典:A、p112)
1929	和田とみ、高良武久と結婚。(出典:E、p234)
1934	イシガ・オサム(20才)、WRI(国際反戦協会)入会(高橋元一郎の勧め)(出典:G、p254) 同年、W女史(高良の旧姓和田とみとみられる)の勧めで友和会に入会。(出典:G、p254)
1940～	高良とみ、大政翼賛会に入り活動。(出典:E、p240)
1943/8/1	イシガ・オサム、岡山憲兵分隊に出頭。兵役拒否を告げ、留置される。(出典:B、p219)
1943/10/15	イシガ・オサム、自ら兵役拒否からの転向を告げる。 その後姫路→東京麹町分隊留置場へ移送される。(出典:B、p243～)
1943/11中旬	イシガ・オサム、友和会の代表(小崎道雄、高良とみ、クエーカーの某氏)と面会。 (出典:B、p249、G、p260、F、E、) イシガ・オサムに友和会入会を勧めたW女史は、面会時イシガ・オサムに見覚えがないと言う。代表はイシガ・オサムに転向を迫った。(出典:G、p260) その後、賀川豊彦と面談。賀川は聖書を引用して転向を迫る。(彼らはイシガ・オサムが既に転向している事を知らされていなかったらしい。)(出典:G、p260)
1943/11/	軍より友和会解散通知を書くよう強制あり。幹部は会員に諮らず通知書にて友和会を解散。 解散通知に小崎道雄理事長、高良とみ書記長(47才)署名。(解散通知全文:出典:C、p156)
1943/12/3	イシガ・オサム、罰金50円で釈放。九州に帰る。翌年4月より筑陽女子商業学校勤務。 (出典:B、p250～)
1945/7/	イシガ・オサム、福岡の加藤隊に衛生兵として応召、軍務につく。(出典:B、p296～)
1845/8/15	イシガ・オサム、福岡、加藤隊で敗戦を迎える。9月17日復員。(出典:B、p297～)
1948	九大米軍捕虜人肉食事件の横浜軍事裁判(3月～8月)に提出された「和田・高良富子の陳述書」に、高良とみは(52才)は「(解散通知書に)署名しました」と書いている。陳述書の原文は英文タイプで、川上友子の訳による邦文の全文あり。(出典:D5、p277～) 高良とみの息女・高良留美子の同書解説によると、「署名しました」というのは肉筆によって書き込まれており書き込みの時期は裁判後と推定。(出典D5、p426～)
1964/9/	高良とみ(68才)、友和誌で解散通知に「私は目も通さなかったし、署名も勿論しなかった」と前言を翻す。(出典:F、p2)。「48年発言との矛盾について高良留美子の言及なし。
1983	高良とみ(87才)自伝で「最後まで署名しませんでした」と記す。(出典:E、p109)
【出典】	A: 「日本友和会の歩み」1926～2000(日本友和会 2003) B: イシガ・オサム著「神の平和一兵役拒否をこえてー」(日本図書センター 1992) C: 安藤肇著「深き淵よりーキリスト教の戦争体験」(キリスト新聞社 1959) D: 高良とみ著「高良とみの生と著作」第5、7、8巻(ドメス出版 2002) E: 高良とみ著「非戦を生きるー高良とみ自伝」(ドメス出版 1983) F: 高良とみ「『友和会解散通知』のいきさつ」(友和誌 142号 1964) G: イシガ・オサム「憲兵と兵役拒否の間ー神を信じて生きる喜びについて」 文藝春秋3月号 1966)